

中学校第3学年美術科学習指導案

1、単元名

好きな画家の視点で自画像を描く

教材：「私との対話」A 表現（日本文教出版23年下）

2、単元の目標

（1）美術科としての目標

○好きな画家が、どのような視点で世界を見つめ受け止めていたかを、鑑賞を通して想像することができる。

○好きな画家の視点になって自分自身をモデルとして見つめ直し、その画家の表現にならって描くことができる。

（2）汎用的スキル

○画家の視点になりかわって自分自身を見つめ直し、第三者の立場で自分自身を深く理解し、表現することを通して、新たな視点を獲得することができる。（メタ認知能力）

（3）態度・価値

○人によって身のまわりの世界の見方や受け止め方が、それぞれ違う点を理解することで、個の尊厳や、自分自身を含めて人を愛おしむ気持ちを持つことができる。（愛する力）

3、生徒の実態

中学3年生は義務教育最終段階であり、行事等においては最高学年として卒業生から引き継いだバトンを、後輩たちに渡すべく燃え上がるエネルギーを注ぐ一方、進路を控えてのプレッシャーや不安、思春期特有の不安定さとの入り交じった複雑な精神状態にある者が多い。理想と現実のギャップに悩み、自身を過大に意識する主観的な視点との交錯状態にある不安定な様子も見受けられる。目標を見つけて努力する場合もあれば、この時期特有の不安定さもあり、自分らしさに自信が持てない場合も少なからずあり得る。発達段階からも、物事を深く見つめようという姿勢が育ちつつあると言える

4、単元について

①教科から見た特性

本教材は、生徒各自が自分の興味を引く画家を選び、“その画家が、私をモデルに選んだとしたら、どのように私自身の本質に迫るだろうか？”という活動となる。画家の視点になって、自分自身を見つめてみるという、表現活動を通じた鑑賞活動となる。画かの作品群を深く鑑賞することで、画家がどのように世界を観て感じていたのかということを想像し、画かも視点になりきって世界を眺めてみるという仮想体験をする。さらにその対象として“画家がこの私をモデルとして選んだら、どのように描くだろうか？”と深く自身を見つめ直すことを通して、描画する活動となる。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

自分自身を過大に意識しがちな主観的な視点ではなく、第三者である画家の視点で自分自身を見つめ直してみることで、メタ認知能力を育成し、画家が世界を観る視点や、新たな自分自身との出会いや発見につながる可能性へと、深い学びにつながる地平を視野に入れている。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全7時間 本時3／7時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	・様々な画家の作品を鑑賞し、視点となる画家を選びどのように世界を観て受け止めていたのかを探る。 ・画家の視点のコンセプトマップを作成し、さらにマインドマップを描くことで自分自身を見つめる。	○好奇心・探究心 ○批判的思考力 ○メタ認知力	○画家の視点になってみる場の設定 ○コンセプトマップやマインドマップの作成を通して、理解を広げたり深めたりしながら構想への足がかりとする
第2次 (5時間)	・画家の視点で、自分を描く構想を練り、画材や表現方法の計画をたてる。 ・構想に基づき、画家の視点で自分自身を描く。 ・完成作品と画家の作品を再度鑑賞し直し、グループ内でプレゼンし合いながらディスカッションをする。	○先を見通す力 ○感性・表現・創造の力 ○他者に対する受容・共感・敬意 ○愛する心	○よりふさわしい画材や表現方法を構想させる ○制作と鑑賞を繰り返しことで、より画家の視点や自分自身に迫らせる ○他者との学び合いの設定

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・画家の視点で、自分自身をモデルにしたらどのように描くかを想像し、エスキースを描きながら構想を練る。
- ・制作に使用する画材や表現方法の計画をたてる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 7分	好きな画家が、私をモデルにしたらどのように描くだろうか？ ○森村泰昌を鑑賞することで、本課題への取組に対する姿勢をつかむ。 ・「なってみる」表現方法からの学びについて考える。 ○生徒作品例やエスキースを鑑賞し、イメージをつかむ。 ・パスキアやボテロ等、他の画家が描いたダ・ヴィンチの「モナリザ」から、価値観や表現方法の多様性について考える。 ・生徒作品例から、様々な視点や表現方法を鑑賞し、イメージをつかむ。	◇資料集で森村泰昌の作品を鑑賞しながら、「なってみてはじめてわかること」から、「画家の目になって描いてみてはじめてわかること」に導く。(好奇心・探究心) ◇着眼ポイントとして、「技法」「表現方法」「色彩や形」「タッチ」「全体的な印象」等を意識させる。(作品例の用意：批判的思考力)
展開 38分	○画家の目になったつもりで、どのような視点で世界を観て受け止めていたのかを探りながら、自身をモデルとしてラフスケッチをする。 ・自分が興味を持ち、「描きたい」、もしくは「描けそう」と思える画家の作品を鑑賞しながら、画家の眼を疑似体験する。 ・ラフスケッチを通して、画家が世界をどのように観てどのように感じとっていたかを探る。 ○描画表現活動をしながらも、画集や資料集などで画家作品を鑑賞し、常に画家の視点や表現方法を探求する。 ・本質を見極めようと人生をかけて描いてきた画家の視点で、世界を観直してみる疑似体験をする。 ・画家が本質に迫ろうとする視点で、自分自身を見つめ直してみるように努める。 ○どのような画材や表現方法が適しているか、ラフスケッチの試行錯誤を繰り返しつつ探っていく。 ・描き始めてみて計画の練り直しがある場合は、次回用意する必要があるものを確認する。 ・混合技法等も検討してみる。	◆画家作品の模写や、画家のタッチで描けば良いのでは無く、画家が世界を観て受け止める視点を解釈しようとしているか。(コンセプトマップ・ラフスケッチの試行錯誤) ◇画家の目で世界を観てみることは、画家が主に右脳を使って世界を解釈する方法を、自分の左脳で分析していくことでもあり得る。画家の右脳を疑似体験することを理解させる。(好奇心・探究心) ◇カンディンスキー等の抽象画家や、リキテンスタインや奈良美智といった漫画やアニメ、イラストの表現をする画家や、漫画家も選択肢に入れることで、本教材への興味関心を高めさせる。 ◇制作と鑑賞を交互に行わせることで、より画家の視点に近づき、自分を見つめることで、本質に迫るよう促す。(感性・表現・創造の力) ◇キャンバスボード、アクリル絵の具、水彩紙、透明水彩絵の具やパステル等、画家に近い表現ができるような画材を教師側が用意し選択させることによって、表現意欲を高めることにつなげる。(先を見通す力) ◆画家がどのように世界を観て受け止めていたのかを探りながら、本質を見極めようとする視点で自分を見つめ直そうと努めているか。(コンセプトマップ・マインドマップのラフスケッチでの視角化への試行錯誤)
結末 5分	○学習感想と次回への計画をワークシートに書く。 ・画家の視点で自分自身を見つめることで、「人間」を深く探究する。 ・画家の世界を観る目と受け止める心を疑似体験することで、新たな視点の獲得が目指される。	◇今後の計画的に見通しをもたせる。時間的に厳しい場合は、描きたい部分をトリミングさせるよう予定を変更させる。(先を見通す力) ◆考えを深めたり、広げたりしている。(ワークシート)

●記録映像 無し